

これからの授業と

教師の役割

——教える、そして共に学ぶ存在へ

本誌10月号では、高大接続改革においてその飛躍的充実が求められているアクティブ・ラーニング（以下、AL）について、高校現場の状況と課題を確認した上で、ALの目的と、それを踏まえたこれからの授業デザインのあり方についての提言を、現場の教師へのアンケートやヒアリングで得られた声を基に行った。今号も引き続き、これからの授業のあり方について取り上げ、中でも、教師の役割とそれを果たすために求められる指導について考えていく。

Q. 10月号・特集「思考を活性化させる授業デザイン」についてのご意見・ご感想をお聞かせください。

◎AL型授業において、ますます「教師の発問力」が問われるのは間違いない。勤務校でも今年度、「生徒を深い思考へと誘う問いとは？」をテーマに掲げ、授業研究に取り組んでいる。教師の問いにより生徒の学びの質が変わることを、教師はもっと自覚する必要がある。(福井県)

◎本校でもALの実施が推奨されている。しかし、単に「ワイワイ、ガヤガヤする授業」と勘違いされている節もある。生徒の頭の中が、講義型の授業よりも活性化されることが目的であるにもかかわらず、今後は、深く考えさせるような仕組み（発問など）を常にどのように生徒に提示できるかが、「良い先生」の条件になってくるのではないか。(岡山県)

◎ALについては、自校でも指定研究を深めている。ラーニングピラミッドの観点から考えても効果的で、時間的な制約はあるが、推進したいと考えている。ALの前提となる人間関係づくりや資質の育成と共に、中学校と連携したALや教科横断的なALについても模索できないものかと考えている。(徳島県)

◎最近の様々な研修を通じて、「AL」という言葉が一人歩きし始めていると感じている。ALを導入し、「とりあえずやってみよう」という掛け声は大切なことではあるが、目的の確認・共有及び授業力の研鑽が不可欠だ。今後の研修などの充実が、ALの充実の鍵を握ると感じている。(愛媛県)

出典／「VIEW21」高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは、2015年10月にウェブとファクスで実施。

現場の声を基に、10月号で提言したこれからの授業のあり方

- ◎高校教育におけるALの最も重要な目的は「生徒個々の思考の活性化・深化」。他者との協働的な活動は、思考をより深いものにするためには不可欠な要素であるが、それ自体が目的ではない。
- ◎思考の活性化・深化は、他者との協働的な活動（言わば「動」の学習）と、生徒個々の熟考や内省（言わば「静」の学習）を有機的に組み合わせる、教師の授業デザインによって実現する。
- ◎思考を活性化・深化させる授業デザインでは、ALは生徒の状況によって最適と考えられるタイミングで選択される。つまり、「ALありき」ではないが、分野・単元の深い理解にはALは不可欠である。

本号のテーマ

生徒の思考を活性化・深化させる授業を行う上で求められる教師の役割、指導とは？

1 教師が新たに担う「ファシリテーターとしての役割」

インタビュー【P.6~7】

- ◎ファシリテーターとは、「集団の中での知的な創造活動を促進する人」のこと。司会・進行役のような役割も担うが、最も重要な役割は、集団を構成するメンバーの力を最大限に引き出すこと。
- ◎これからの授業では、生徒が安心して思考を深められる環境を整えた上で問いを投げ掛け、生徒の中から答えを引き出し、教室の中でより良い答えを創り出していくことが求められる。

拓殖大国際学部准教授 **石川一喜**



2 求められる2つの指導の観点「場づくりと発問」

座談会

【P.8~13】

- ◎クローズドクエスチョンで場を温めた上で、答えのない問いへ移行することにより、生徒の思考がより深まり、モヤモヤ感が課題に対する興味・関心を高める。
- ◎ファシリテーターの大原則は場の力を信じること。生徒を信頼すれば、生徒の思考の質が変わり、学びに向かう行動やその結果として得られる学力も変わる。
- ◎「自分の発言や態度によって学びの場が変わった」「自分の意見が取り上げられた」といった体験を何度もさせて、生徒が伸び伸びと発言できる安心感を醸成する。
- ◎話し合いの前提となるルールを決めて提示することで、黙っている生徒に発言を促しやすくなり、強く主張しすぎる生徒に対しては自制を促すことも出来る。



拓殖大国際学部
准教授

石川一喜



富山県・私立
片山学園中学・高校

森内梨絵



福岡県立
小倉南高校

大神弘巳

事例1 ● 国語
【P.14~17】

ルールの徹底によるグループワークの活性化と自己採点での学びの個別化を目指す
富山県・私立片山学園中学・高校 **森内梨絵**

事例2 ● 世界史
【P.18~21】

アクティブ・ラーニングとICTを活用し、知的好奇心と課題意識を喚起する授業
福岡県立小倉南高校 **大神弘巳**